

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。



# 株主通信

Vol.19

2017年11月発行号

第一三共株式会社

証券コード 4568

## P.1 新社長に聞く

- Q1 第一三共の強みは？
- Q2 第4期中期経営計画で取り組んでいる経営課題は？
- Q3 中期経営計画の達成のために大切にしていることは？
- Q4 エドキサバンの拡大状況は？
- Q5 日本No.1カンパニーへの道のりは？
- Q6 米国事業の状況は？
- Q7 がん事業の取り組み状況は？
- Q8 株主還元策は？
- Q9 中期経営計画を推進する経営体制は？

## P.9 株主の皆様とのコミュニケーション

## P.10 2017年度第2四半期累計 連結業績



代表取締役  
社長 兼 COO  
眞鍋 淳

## プロフィール

1954年香川県生まれ。東京大学農学部を卒業後、1978年三共(株)入社。入社して約30年間、新薬候補の安全性を調べる部署に所属し、オルメサルタンの海外申請を担う。その後、人事、CSR、経営戦略、営業などを経験。

2017年4月1日より代表取締役社長に就任いたしました眞鍋 淳でございます。

第一三共グループは、**革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献する**を企業理念として掲げています。

2025年ビジョン**がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業**の実現に向けた第4期中期経営計画の達成を目指し、社員ひとりひとりの力を結集して取り組んでまいります。

## Q1 第一三共の強みは？

第一三共グループは、創業以来、病に苦しむ人々を救いたい、という想いのもと、高コレステロール血症治療剤プラバスタチン、合成抗菌剤レボフロキサシンや高血圧症治療剤オルメサルタンなど、革新的な医薬品を継続的に生み出してきました。私たち、第一三共には、1)歴史に裏打ちされた**サイエンス・テクノロジー**、2)世界中の多様な人材を結集した**グローバル組織・人材**、3)誠実な営業活動を通じて築きあげてきた**日本でのプレゼンス**に独自の強みがあると考えています。

### 第一三共の強み



#### サイエンス・テクノロジー

- 創薬型企业として長年引き継がれてきた強力な研究開発のDNA
- 先進的医薬品を創出する高い創薬技術
- 先進的なアカデミアとの強力な関係(オープンイノベーション)



#### グローバル組織・人材

- 世界の英知を結集したグローバル経営体制
- 豊富なグローバルタレント



#### 日本でのプレゼンス

- 医療用医薬品の売上収益No.1
- MR評価No.1
- 多様な医療ニーズへ対応する4事業展開

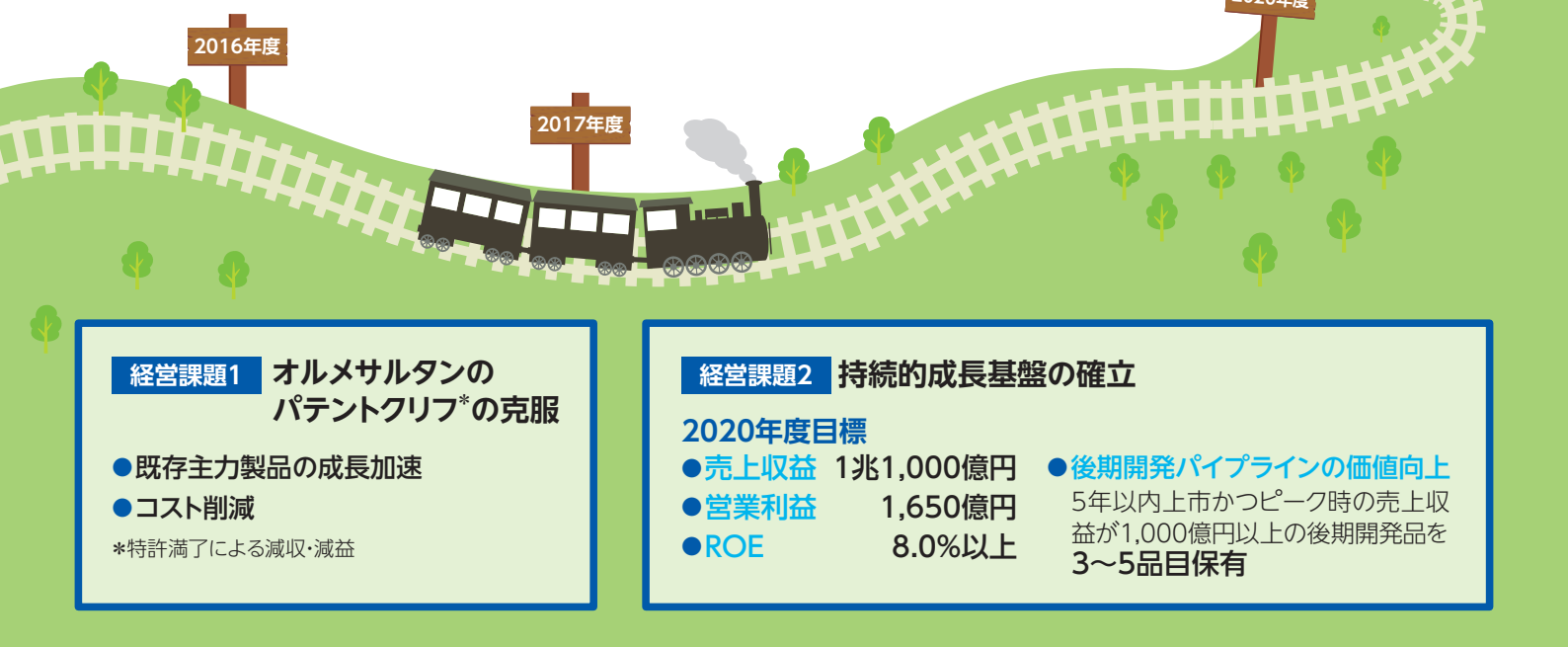
## Q2 第4期中期経営計画で取り組んでいる経営課題は？

当社グループは、3つの強みを活かし、2025年に**がんに強みを持つ先進的グローバル創薬企業**となることを目指しています。

2016年度から2020年度までの**第4期中期経営計画**を2025年ビジョンに向けた**転換**を実現するための5カ年計画と位置づけ2つの経営課題**オルメサルタンのパテントクリフの克服**と**持続的成長基盤の確立**に取り組んでいます。

**2025年ビジョン**  
**がんに強みを持つ  
 先進的グローバル  
 創薬企業**

### ●2025年ビジョンと第4期中期経営計画



**経営課題1** **オルメサルタンのパテントクリフ\*の克服**

- 既存主力製品の成長加速
- コスト削減

\*特許満了による減収・減益

**経営課題2** **持続的成長基盤の確立**

**2020年度目標**

- 売上収益 1兆1,000億円
- 営業利益 1,650億円
- ROE 8.0%以上
- 後期開発パイプラインの価値向上  
 5年以内上市かつピーク時の売上収益が1,000億円以上の後期開発品を3~5品目保有

## Q3 中期経営計画の達成のために大切にしていることは？

私は長年、研究所の現場に立ち、多くの失敗も成功も経験してきました。また、人事、CSR、経営戦略や営業など様々な経験をしましたので、**現場からの視点**も持ちつつ、課題を吸い上げ、方向性を示したいと考えています。

現場との議論を大切にしながら、中期経営計画を達成するための**6つの戦略目標**の達成に向けた取り組みに対して、私自身コミットしていきます。

### ●6つの戦略目標

エドキサバンの成長	日本No.1カンパニーとして成長	米国事業の拡大	がん事業の立上げ・確立	SOC*を 変革する医薬品の 継続的創出	利益創出力の強化
-----------	------------------	---------	-------------	----------------------------	----------

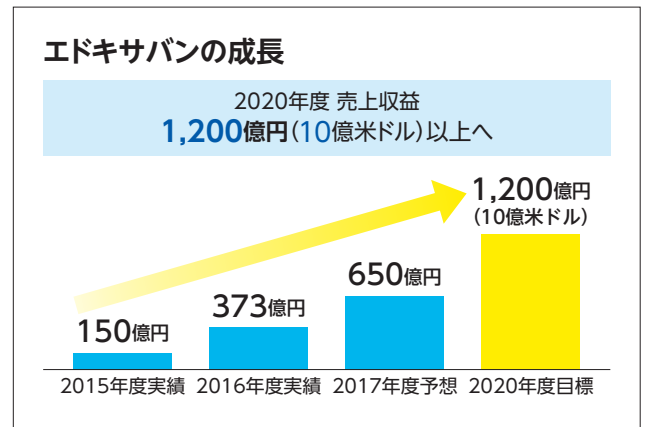
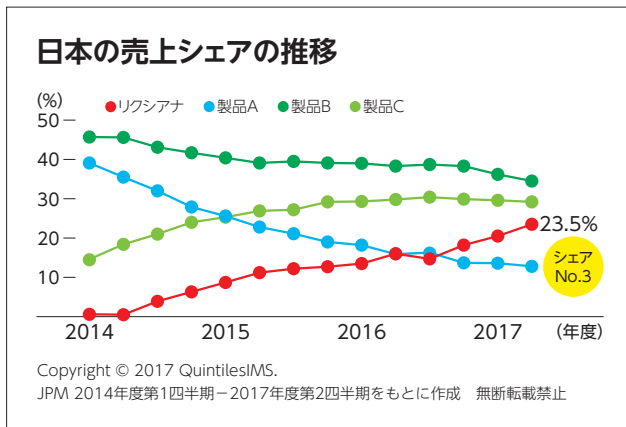
\* 現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法

戦略目標の主な進捗

Q4 エドキサバンの拡大状況は？

これからのグローバル主力品である抗凝固剤**エドキサバン**(日本製品名：リクシアナ)は、日本市場でその**売上シェアを順調に拡大**しています。また、既にグローバル市場の約95%を占める20カ国以上で製造販売承認の取得・発売を達成しており、**ドイツやその他の地域でも順調に売上シェアを拡大中**です。

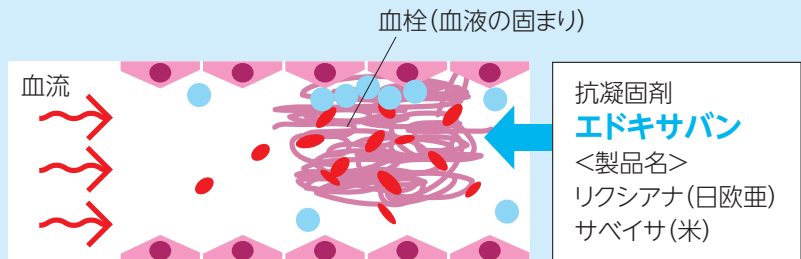
この分野のニーズは全世界で拡大傾向にあり(2016年約1.4兆円)、**今後のさらなる成長**が期待されます。



エドキサバンとは？

エドキサバンは、血流の滞った心房内や血液の流れが遅い静脈でできやすくなる血液の固まり(血栓)が原因で発症する脳梗塞等の予防、及び肺塞栓症やいわゆるエコノミークラス症候群の治療・予防に用いられる薬剤です。

エドキサバンは、制約の多い標準治療薬ワルファリンに比べ、高い安全性と利便性を兼ね備え、高品質な試験結果に裏打ちされた優れた薬剤です。



標準治療薬「ワルファリン」

- 食物や併用する薬との相互作用により効果の個人差が大きい
- 食事制限や定期的な血液検査が必要
- きめ細かな投与量の調整が必要

エドキサバンの強み

1. 高い安全性(低い出血リスク)と利便性(1日1回投与)の両立
2. 患者さんの状態に合わせた用量選択が可能
3. 世界最大規模の高品質な臨床試験データの蓄積

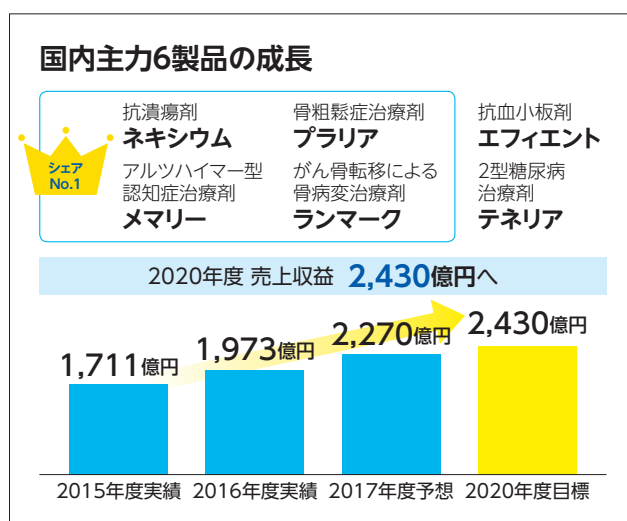
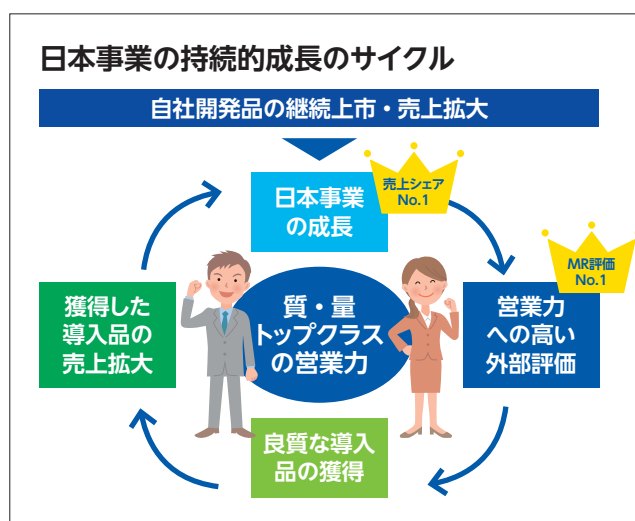
エドキサバンの「エド」は、「江戸」に由来し、命名されました。この分野で、唯一のメイドインジャパンの製品として、国内のみならず世界中の患者さんを救う薬剤です。

## Q5 日本No.1カンパニーへの道のりは？

日本では、多くの新薬を患者さんにお届けしていますが、特に主力6製品の売上が着実に伸びており、このうち**4製品**は、**既に市場シェアNo.1**を獲得し、**さらに成長**を続けています。

また、当社の**医薬情報担当者(MR)**は、**医師からの総合評価で5年連続No.1**を獲得しています(株式会社アンテリオによる調査)。当社の営業力に対する外部からの高い評価が良質な導入品の獲得に繋がり、自社製品とともに導入品の売上を拡大することにより、売上規模と外部評価が一層高まるという好循環を生み出し、**2016年度**の**日本における医療用医薬品の売上収益**は、**No.1**を達成しました。

この好循環を継続するための取り組みを推し進め、名実ともに日本No.1カンパニーとして、さらに成長することを目指します。



## Q6 米国事業の状況は？

米国では、疼痛領域と鉄注射剤及びジェネリック注射剤事業の拡大に取り組んでいます。

**疼痛領域**については、制吐剤配合麻薬性鎮痛剤CL-108の開発活動からの撤退や、欧米で実施してきた線維筋痛症患者を対象としたミロガバリンの臨床試験での主要評価項目が未達になるなど、**課題**を残したため、見直しを図っていきたいと思います。

一方で、鉄欠乏性貧血治療剤**インジェクタファー**は**市場の成長を牽引**する売上拡大を続けており、また、継続的な製品拡充によりジェネリック注射剤事業も順調に拡大しています。

**鉄欠乏性貧血治療剤とは？**

インジェクタファー

生体内で鉄が不足すると、鉄欠乏性貧血の原因となります。従来から鉄欠乏性貧血の治療に広く用いられてきた経口鉄製剤は、長期の服用が必要で、体内への吸収性も低いなど、多くの課題がありました。現在、米国では短期での鉄補充を可能にする高用量鉄注射剤が注目を集め、インジェクタファーを中心にその市場が拡大しています。

## Q7 がん事業の取り組み状況は？

がん事業の立ち上げ・確立については、**当社独自の抗体薬物複合体(ADC)技術**を活用した**DS-8201**が有望な臨床結果を獲得するなど、2025年ビジョンの実現に向けて**大きく期待**が高まっています。

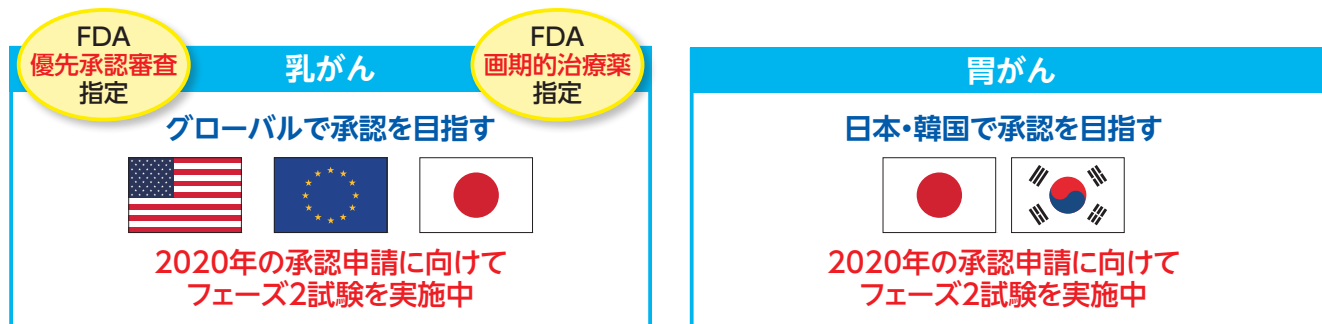
フェーズ1臨床試験において、現在の標準治療が奏功しない**乳がんや胃がん**のがん患者さんの中に、DS-8201が**著効を示す**症例が多く確認されました。

2016年10月以降、臨床試験の途中経過を欧米の臨床腫瘍学会で順次報告し、米国FDA(米国食品医薬局)よりHER2陽性の再発・転移性**乳がん治療**を対象として2016年11月に**「優先承認審査」指定**を、また2017年8月には**「画期的治療薬」指定**を受けました。

2017年8月には、HER2陽性の再発・転移性乳がんの患者さんを対象としたグローバル・フェーズ2試験を開始し、2017年11月には、日本やアジアで多い胃がんを対象としたフェーズ2試験を開始しました。DS-8201を一日も早く患者さんにお届けできるよう、それぞれ**2020年の申請**を目指し、開発を加速しています。

さらに、DS-8201の価値最大化のため、免疫チェックポイント阻害薬ニボルマブ(オプジーボ®)との併用療法を乳がん・膀胱がんで評価するフェーズ1試験も開始する予定です。

### ●DS-8201の研究開発状況



#### 「優先承認審査」指定とは？

「優先承認審査」指定とは、重篤な疾患や未充足の医療ニーズが高い疾患に対し、高い治療効果が期待できる薬剤をFDAが優先的に審査する制度です。

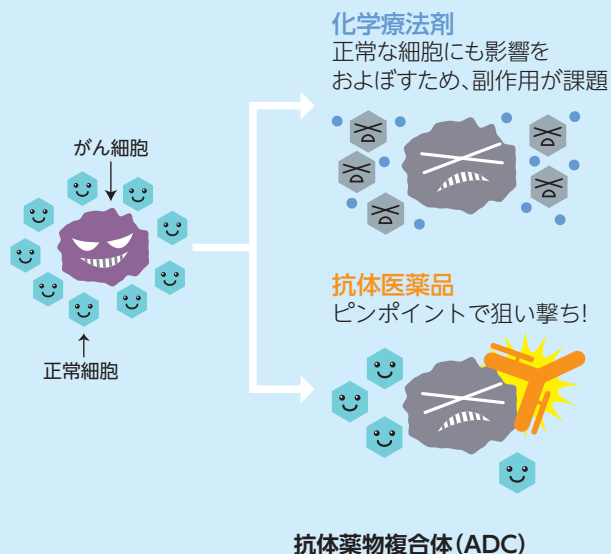
#### 「画期的治療薬」指定とは？

「画期的治療薬」指定とは、重篤な疾患を対象に、既存の治療薬よりも高い治療効果を示す可能性のある薬剤の開発と審査を促進し、患者さんにより早く新薬を届けるために定められた制度です。「優先承認審査」指定に比べ、さらに審査期間が短縮されます。

## ① 抗体医薬品とは？

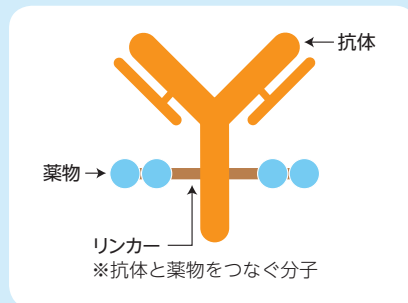
私たちの体には、体内の異物と結合する抗体をつくり、異物を無毒化し、除去する仕組みがあります。抗体医薬品とは、この抗体の仕組みを利用して、病気の予防や治療を行う医薬品です。

従来、がん治療薬の中心であった化学療法剤は、がん細胞だけでなく、正常細胞にも影響をおよぼすことから、副作用が課題でした。がん細胞の表面には、特定のたんぱく質(抗原)が過剰に発現していることが知られており、現在では、その抗原に特異的に結合し、がん細胞のみに働きかける抗体医薬品が開発されています。



## ② 抗体薬物複合体(ADC)とは？

がん細胞のみに作用する抗体医薬品は、副作用の少なさが特徴ですが、がん細胞を死滅させる効果は必ずしも十分ではありません。そこで、抗体に化学療法剤である薬物を結合させ、標的のがん細胞に特異的に送り込むことで、高い効果と低い副作用リスクの両立を実現した医薬品が『抗体薬物複合体』(Antibody-Drug Conjugate)です。



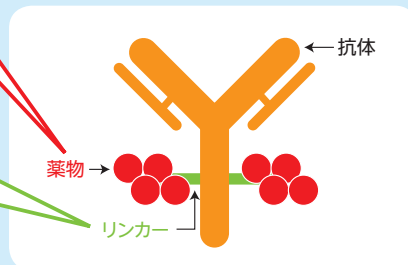
## ③ 第一三共のADCの特徴は？

当社のADCには、従来の化学療法剤を最適化した薬物と、その薬物と抗体をつなぐ独自のリンカーを特徴とする当社独自の技術が使われています。

- 従来の化学療法剤に比べ、がん細胞を死滅させる作用が強力
- 薬物が代謝・排泄されるまでの時間が短く、副作用リスクが少ない
- ターゲット周辺のがん細胞も死滅させる効果がある

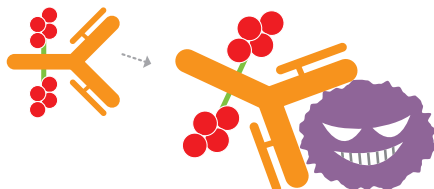
- 1つの抗体に約8個の薬物を均一に結合できる
- 安定性が高く、血中で薬物が放出されず、選択的にがん細胞内に薬物を届けることができる

### 第一三共のADC



### 第一三共のADC

血中で薬物が外れにくく、標的がん細胞に届く



薬物をがん細胞内で放出し、がん細胞を死滅させる

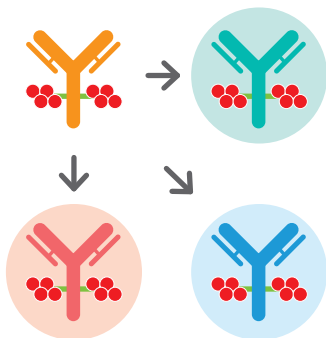


## 新社長に聞く

当社のADC技術は、使用する抗体を変えることにより**様々ながんに対する治療薬となる可能性**があり、現在、複数の研究開発プロジェクトを推進しています。

さらに、抗体の種類を増やす目的で、他社との協業も積極的に推進しています。

当社のADC技術は様々な抗体と組み合わせることが可能

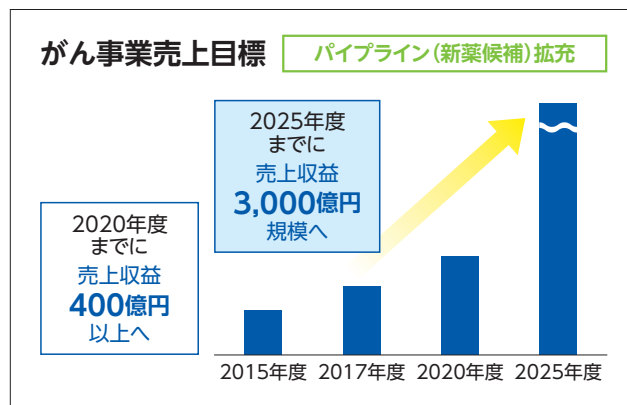


### ●ADCフランチャイズパイプライン(新薬候補)

プロジェクトコード	抗体標的	適応症	前臨床試験	フェーズ1試験	申請用試験
DS-8201	HER2	乳がん・胃がん	■	■	■
		オプジーボ®併用 乳がん・膀胱がん	■	■	
U3-1402	HER3	乳がん 非小細胞肺癌	■	■	
DS-1062	TROP2	固形がん	■		
DS-7300	B7-H3	固形がん	■		

2017年10月現在

自社開発品の開発を加速するとともに、外部資源の獲得による新薬候補の拡充を図り、2025年度には、がん事業を中核事業として育ててまいります。



## Q8 株主還元策は？

第4期中期経営計画期間中、**総還元性向\***を**100%以上**とし、配当金は**普通配当**を**年間70円以上**とする方針です。配当は安定的に行い、**自己株式取得**を**機動的**に実施します。

なお、2017年度は、1株当たり年間70円(中間配当・期末配当 各35円)の普通配当を実施する予定です。また、2017年11月より、取得総額500億円を上限とする自己株式取得を実施中です。

	第4期中期経営計画	2016年度実績	2017年度予想
総還元性向*	100%以上	180.7%	—
年間配当	70円以上	70円	70円(予定)
自己株式取得	機動的	500億円	上限500億円(実施中)

\*総還元性向 = (配当+自己株式取得総額) / 当期利益(親会社帰属)



## Q9 中期経営計画を推進する経営体制は？

2017年4月に**経営体制強化**のため、社長(CEO)1名体制から、**会長(CEO)と社長(COO)2名体制**へ変更しました。

また、2017年6月19日開催の第12回定時株主総会において、社外取締役4名を含む取締役10名を選任いただきました。さらに、**監査体制の充実**を図ることを目的として、**社外監査役1名を増員**し、社外監査役3名を含む監査役5名の体制とすることを決議いただきました。

新たな経営体制のもと、第4期中期経営計画を全力で推進してまいります。



⑦社外監査役  
木村 明子

⑧常勤監査役  
春山 英幸

⑮社外監査役  
泉本 小夜子

⑨社外取締役  
足立 直樹

⑩社外取締役  
宇治 則孝

⑪社外取締役  
戸田 博史

⑫社外取締役  
福井 次矢

⑬常勤監査役  
渡辺 一幸

⑭社外監査役  
片桐 裕

①取締役  
専務執行役員  
藤本 克巳

②代表取締役  
副社長 兼 CFO  
副社長執行役員  
廣川 和憲

③代表取締役  
会長 兼 CEO  
中山 譲治

④代表取締役  
社長 兼 COO  
社長執行役員  
眞鍋 淳

⑤取締役  
専務執行役員  
齋 寿明

⑥取締役  
専務執行役員  
東條 俊明



## 最後に

私たちは高血圧症治療剤オルメサルタンのパテントフリフを乗り越え、必ず革新的な医薬品を継続的に生み出し、患者さんのもとにお届けしてまいります。

株主の皆様のご引き続きのご支援をお願い申し上げます。

2017年11月

代表取締役  
社長 兼 COO 眞鍋 淳

## 株主の皆様とのコミュニケーション

前号の株主通信のアンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。多数の株主様からのご回答をいただきました。**お寄せいただいた株主の皆様の声**を一部ご紹介いたします。

**株主総会に出席できないので、東京以外での説明会を開催して欲しい。**

**回答** 2017年6月19日に開催しました**第12回定時株主総会**には、約1,900名の株主様にお越しいただきました。議長プレゼンを含む事業報告の内容を、ご出席できなかった株主様にもご覧いただけるよう、今年から**ウェブサイトでの公開**を始めました。

また、株主の皆様のご要望にお応えして、2017年2月18日に**当社代表取締役による株主様向けの説明会を大阪にて開催**しました。当日はご出席の株主様からたくさんのご質問・ご意見をいただき、経営陣にとっても非常に有意義な機会となりました。今年度は名古屋での開催を予定しています。ご出席を希望される株主様は、同封の参加申込書をご返送下さい。

### 第12回 定時株主総会 配信動画



第一三共 株主総会動画 検索



**海外の企業の方はCSR、社会貢献活動がより充実しているように感じる。第一三共での取り組みは？**

**回答** 当社グループは、**事業活動とCSR活動を不可分なものとして一体的に運営**し、持続的な企業価値向上の実現を図ることを目指しています。2017年9月には、気候変動を含む環境経営の取り組みなどが高く評価され、投資家の重要な指標の1つである**DJSI Worldの医薬品セクターの構成銘柄に日本企業として初めて選定**されました。

当社グループの強み、事業活動、コンプライアンス経営・環境経営の推進、そして社会貢献活動などを含む**CSR活動**の取り組みについては、統合報告書「**バリューレポート2017**」で分かりやすくお伝えしています。

当社ウェブサイトに掲載、また、冊子の無料請求も承っていますので、ぜひご覧下さい。

### バリューレポート2017



第一三共 バリューレポート 検索



もっと  
して欲しい

### 株主様アンケートご協力をお願い

株主の皆様の声を今後の株主通信の編集やIR活動に反映するため、引き続きアンケートを実施いたします。当社に対するご要望をぜひお寄せ下さい。  
(受付期間:2017年12月1日~2018年1月15日)

なぜ  
なの?

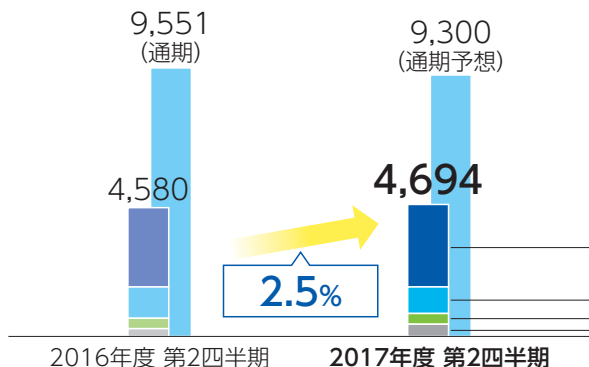


同封のアンケートはがきにご回答いただき、ご返送下さい。  
**切手は不要です。**

# 2017年度第2四半期累計 連結業績

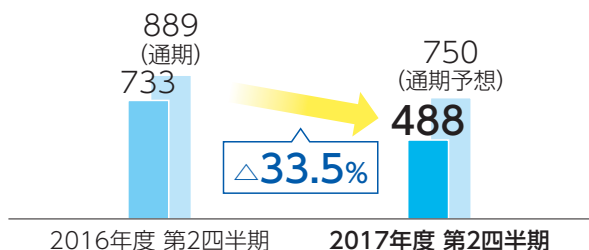
## ■売上収益

(単位:億円)



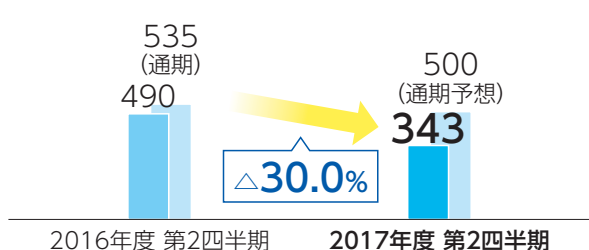
## ■営業利益

(単位:億円)



## ■当期利益(親会社帰属)

(単位:億円)



## ■主要ビジネスユニット・主要製品 売上推移

(単位:億円)

	2016年度 第2四半期	2017年度 第2四半期	増減率
<b>日本</b>			
日本カンパニー+ワクチン事業	2,390	2,576	7.8%
ネキシウム(抗潰瘍剤)	420	447	6.3%
オルメテック(高血圧症治療剤)	349	319	△8.7%
メモリー(アルツハイマー型認知症治療剤)	234	245	4.7%
リクシアナ(抗凝固剤)	115	197	70.9%
テネリア(2型糖尿病治療剤)	118	132	12.4%
プラリア(骨粗鬆症治療剤)*	83	109	31.0%
ランマーク(がん骨転移による骨病変治療剤)	68	76	11.2%
エフィエント(抗血小板剤)	49	64	30.2%
第一三共ヘルスケア	322	358	11.2%
<b>米国</b>			
第一三共Inc.	703	420	△40.2%
ウェルコール(高コレステロール血症治療剤・2型糖尿病治療剤)	195	197	1.2%
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	367	103	△71.9%
エフィエント(抗血小板剤)	108	80	△26.2%
ルイトポルド	417	524	25.4%
インジェクタファー(鉄欠乏性貧血治療剤)	111	161	45.5%
ヴェノファー(鉄欠乏性貧血治療剤)	139	147	6.2%
<b>欧州</b>			
第一三共ヨーロッパGmbH	370	382	3.5%
オルメサルタン(高血圧症治療剤)	247	180	△27.2%
リクシアナ(抗凝固剤)	33	110	234.0%
エフィエント(抗血小板剤)	42	39	△7.6%
<b>その他</b>			
アジア/中南米(ASCA)	340	386	13.4%

\*2017年7月に関節リウマチに伴う骨びらの進行抑制の効果・効能を追加

## 決算のポイント

2017年度第2四半期の売上収益は、欧米における独占販売期間の満了に伴いオルメサルタンが減収となったものの、エドキサバン(日欧での製品名:リクシアナ)等の主力品の伸長及び為替影響により、前年同期に比べ2.5%増収の4,694億円となりました。

営業利益は、米国における制吐剤配合麻薬性鎮痛剤CL-108の権利返還による無形資産の減損損失(278億円)を計上したこと等から、33.5%減益の488億円となりました。

当期利益(親会社帰属)は、営業利益の減収に伴い、30.0%減益の343億円となりました。

なお、2017年度の通期業績は、売上収益9,300億円、営業利益750億円、当期利益(親会社帰属)500億円を見込んでいます。

為替レート	2016年度 第2四半期	2017年度 第2四半期	増減
米ドル/円	105.35	111.07	5.72
ユーロ/円	118.22	126.29	8.07

当社WEBサイトで、決算のより詳細な情報をご覧ください。

第一三共 決算短信・説明会資料



がんや血栓の新しい治療薬を届けたい。  
第一三共が積み重ねてきたサイエンスに  
新しい切り口を加えて  
生まれるイノベーション。  
その先に、希望という名の  
ゴールがあると信じて。



イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。



Daichi-Sankyo  
第一三共株式会社

## 企業インフォメーション (2017年9月30日現在)

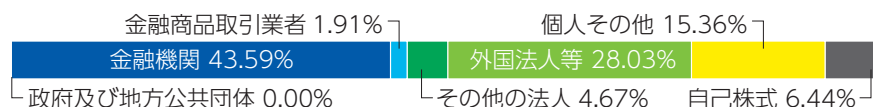
### 会社概要

商号	第一三共株式会社 (DAIICHI SANKYO COMPANY, LIMITED)
資本金	500億円
事業内容	医薬品等の研究、開発、製造、販売及び輸出入
従業員数	14,791名(連結)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (連絡先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)

### 株式情報

発行済株式総数	709,011,343株
株主数	95,686名

### 所有者別株式分布状況



### 企業広告に込めた想い

この企業広告には、第一三共の強みである長年引き継がれてきたサイエンス・テクノロジーが、患者さんとそのご家族の希望となる新しい治療薬をお届けするという想いを込め、当社の独自技術を活用した開発中の抗がん剤DS-8201の化学構造式の一部を表現しました。

革新的医薬品を継続的に創出し、多様な医療ニーズに応える医薬品を提供することで、世界中の人々の健康で豊かな生活に貢献します。